

あたしの人形。

kitamizu1989

あたしの人形

6年2組と書かれた教室は今日も元気な声が響き渡っている。子供というのは無邪気で元気がよく可愛いものである。

そんな可愛い子供は時に残酷で非常である。これはそんな非常な子供達が生み出した恐怖である。

K「返してよ～あたしの人形」

少女は泣きながらBを追いかけている。少女は自分が大切にしている人形を取られ泣いているのだ。

B「やだよ～だ」

クラスの中ではこれが日常茶飯事の事で誰一人止めようとしなない、いや、正確には止められない。

止める事によって自分も苛められるんじゃないかと思うと怖くて止められないのだ。

B「おいAパス」

A「あいよ！」

K子ちゃんはその場に立ち止まって大声で泣きはじめてしまった。

B「お前が学校に人形なんか持ってくるから悪いんだぞ」

A「そうだそうだ」

C「大体こんな汚い人形いらないだろう」

その人形をよく見てみると黒くなっていて生地もボロボロになっている。少年たちが乱暴に扱ったわけではない。

K子ちゃんにとってその人形というのはとても大切なものなのだ。

5年前、K子ちゃんが7歳の時だった。お母さんが誕生日プレゼントにと買ってくれたのがその人形だった。

しかし、その年に両親が離婚してしまいお父さんに引き取られたのだ。原因はお母さんの浮気。

それでお父さんはK子ちゃんを引き取りお母さんとは二度と会わせない事にしたのだ。

なので、K子ちゃんにとってその人形はお母さんの最後のプレゼントでありとても大切な物なのだ。

K「返してよ～」

ガラガラと教室のドアが開き先生が入ってきた

先生「どうしたお前ら」

A「いえ何でもありません」

B「K子ちゃんの人形が落ちてたので拾って返してあげようとしてたんです」

C「はい、今度から気をつけるんだよ」

Cはそう言うとK子ちゃんに人形を返してあげた。

K子ちゃんは先生には何も言えなかった。K子ちゃん自身も解っていたのだ。学校に人形なんか持ってくるのが悪い。

しかし、家に置いといたらお父さんが捨ててしまうかも知れない。そう思うと学校に持ってくるしか無いのだ。

先生「そうか、お前らは優しいな。K子ちゃん、ありがとうって言ったかな？」

K子ちゃんは悔しさは堪えて「ありがとう」と言うしかなかった。

先生「は〜い、では授業を始めるぞ」

イジメっ子達はクスクスと笑いながら自分たちの席へと戻っていった。

そんな生活が続いていたある日。夏休み前になって、いつもと違う光景が教室にはあった。

そこにはK子ちゃんがA君を押し倒して殴っていたのだ。教室の生徒達はその光景をただビックリし見つめるしか無かった。

原因はA君が人形を乱暴に扱ったせいで人形の目が取れてしまったのだ。それに怒ったK子ちゃんはA君に襲いかかったのだ。

B「おい！やめろよ」

C「離れろ」

BとCがK子ちゃんを引っ張るもA君の服をガッチリと掴んでいるので中々離れない。そこに先生がきた。

クラスの生徒が先生を呼びに行ったのだ。

先生「やめなさい！」

先生はK子ちゃんとA君を引き離した。

先生「何が原因だい？」

A「人形の目が取れたからって僕に八つ当たりしてきたんです」

K「違う！A君が私の人形を乱暴に扱ったからよ」

二人の喧嘩は収まろうとしない

先生「ここは喧嘩両成敗。どっちとも謝ろうね。」

A「うん、ごめんなさい」

K「・・・・・・・・」

先生「K子ちゃん、ごめんなさいは？」

K「ごめんなさい・・・」

先生「はい、これで仲直りだ」

先生は二人に握手をさせて仲直りさせて終わったものだと思っていた。

しかしA君の中ではまだ終わってなかった。クラスの皆の前で殴られてA君のプライドが許せなかったのである。

放課後。掃除の時間にK子ちゃんは外の掃除をしていた。教室の外のゴミ拾いをしゴミをゴミ捨て場に捨てようとしていた時、後ろから誰かに押されK子ちゃんは前に倒れてしまった。いきなり押されたのでK子ちゃんはコンクリートの地面に激しく腕をぶつけてしまい、誰が押したなど考える余裕もなく痛みがK子ちゃんの腕を襲う。

転んだ拍子に人形を落としてしまい探そうとしたらA君が私の人形を持ってそこに立っていた。

A「お前が悪いんだからな」

A君は真っ直ぐとゴミ捨て場に歩いて行くとその横にはゴミを燃やす焼却炉がある。K子ちゃんは危ないと思った。

A君は人形を焼却炉に捨てるつもりなんだ。腕の痛みを我慢しながらA君を止めようとするもA君は人形を焼却炉に捨ててしまった。

K子ちゃんは今まで誰も聞いたことのないような大声で泣きはじめた。校舎からはあまりにも凄い泣き声なので何があったのかと思い校舎から顔を出している。

A「ああ～すっきりした」

K「どうして・・・」

A「お前が反抗しなかったらこんな事にならなかったんだよ」

K子ちゃんはただ、人形が燃えていくのを見て泣くしかなかった。先生が来た頃にはK子ちゃんはショックで泣くことも止めて焼却炉を見つめていた。

この事は学校内で問題となりK子ちゃんの家にもA君とA君の母親が誤りにきた

A母「すみませんでした」

K父「いえいえ、人形ですから。また買えば良いんですよ」

A母「でも、あれはお母さんからのプレゼントと聞いて・・・」

K父「・・・大丈夫です」

その場所にK子ちゃんの姿は無かった。A君は帰ろうとした時、2階からK子ちゃんの姿が見えた。

しかし、見えたのはA君が知るK子ちゃんでは無かった

ただ、こっちをずっと見て何かをつぶやいている

A君は気にせずその場を後にした。

K父「入るぞ」

K子ちゃんのお父さんはK子ちゃんがいる部屋へ入って驚いた。そこには自分が知っているK子では無かったのだ。

ただ無表情でA君が乗る車を見つめていた。

K父「また新しい人形を買ってやるからな」

K「いらない」

K父「今度は新しい人形だぞ？ピカピカで可愛いのを買ってやる」

K「いらないってば！お母さんのが良いの！」

お父さんは、カッとなってしまい「勝手にしろ！」と怒鳴って部屋を後にした。

この怒鳴ったのが最後の会話になるとはお父さんは解るはずもなかった。

次の日、K子ちゃんが起きてこないのを心配しお父さんが部屋へ見に行くと部屋にはK子ちゃんの姿は無く

机の上には手紙があり、「ありがとう」と一言だけ書いてあった。

慌てたお父さんは直ぐ様、警察に電話をし捜索願を出したがK子ちゃんの行方は解らずじまいとなってしまう。

学校でもK子ちゃんを見かけたら教えて欲しいという呼びかけが始まった。A君はこの時は何も思っていない。

どうせすぐ戻ってくるだろうと思っていたからだ。しかし、K子ちゃんは全然戻ってこなかった。学校ではK子ちゃんの事を触れる事がなく時間だけが過ぎていきK子ちゃんが行方不明になって1ヶ月が経とうとしていた。

A君もK子ちゃんの事を考えないようにしていた頃、A君周りでは奇妙な事が起き始めていた。

ある日の帰り道、A君は普通に帰っていると家の前に女の子が立っていた。誰だろうと近づくと少女は目の前でスッと消えてしまった。A君はビックリして家の中にすぐ入っていった。A君は怖くなった。少女が目の前で消えたのに恐怖したのでは無い、その消えた少女は、まさしくK子ちゃんそっくりだったからだ。

A君は帰って部屋の中に籠り怯えていた。そう、A君は解っていたのだ。K子ちゃんが復讐に来たことを。

その少女を見たからというものA君はずっと何かに怯える生活になってしまった。

外に出たがらず、ずっと「僕を・・・怖い・・・」とつぶやいていたそう。

そして、事件は起こってしまった。

A母がA君を起こしに行こうとしたらA君はいつものように部屋に寝ていたがA母は何かが違うと思った。

そう、静かすぎる。

近づいていくとA母は叫び倒れてしまった。

そこには真っ青で横たわっていたA君の姿だったのである。そう、A君は死んでしまった。

A君の死因を調べる為に病院で解剖すると死因は窒息死であった。

しかし、ただの窒息死では無い。

喉から胃にかけて綿がぎっしりと詰まっていた、胃の中には人形が入っていた。

そう、K子ちゃんが大切にしていた人形だ。しかし、外から入れた形跡が無く警察も頭を抱えていた。

すぐさまこの事件はTVで流れ学校の生徒達にも広がった。噂で学校が騒がしい中、K子ちゃんがいたクラスだけは静かで皆、怯えていた。特にB君とC君はずっと震えていた。そう、次は自分たちかも知れないからだ。

集団下校が義務になり学校は楽しい雰囲気からは一転し何かに怯える生活が始まった。

集団下校が始まって1週間くらいたった。集団下校に慣れ始めた生徒はいつものように楽しく帰っていたのだが、後ろの方で叫び声がした。皆が振り向くとそこには何かに怯えているC君の姿があった。C君の目線の先には田んぼしか無かったがC君の顔は真っ青になり震えていた。

「K・・・・K子ちゃん」

その名前を聞いて皆は怖くなった。C君の目線の先には何も無いがC君には見えているのである。先生達に抱えられながらC君は家に帰ったがA君と同じようにずっと怯えていた。

「次は僕なんだ・・・・」家でそう言っては泣いていたという。

そして、A君同様にB君も死んでしまった。

今回の死因は焼身自殺。

C母が起こしにいった所、窓があいておりC君の姿は無かった。A君の事件があった事からすぐ警察に通報した所、

C君の家から300M離れた土手で真っ黒に焦げた死体を発見。体の大きさからC君だとすぐ解った。自殺だと判定したのはC君の右手にはライターを握っており指紋も本人以外のものは出なかった。

あまりの恐怖に自殺？

小学生がそんな酷い自殺を選ぶわけが無い。事件はより難関になった。

一方、C君の死体が見つかった頃にB君の様子も変わった。

そうB君もK子ちゃんの姿を見たのだと言う。警察はすぐB君の家の周りを見張った。もしK子ちゃんが犯人だとしたら

K子ちゃんは現れるはずだと警察は思ったのだ。

そして、B君がK子ちゃんの姿を見たと言って3日目。警察はずっと見張っていたにも関わらずB君は死んでしまった。

死因はA君と同じ。しかも、同じく人形が入っていたのだ。警察はショックを隠し切れなかった。自分達が一晩中見張っていたにも関わらず事件は起きてしまったからだ。

K子ちゃん・・・・・・彼女がなんなのだろうか。霊という言葉を使いたくなかったが警察は使わざるおえない状況だった。

学校にも自粛が始まりしばらく休みが続いたがそれ以降、事件というのはピツタリ無くなってしまった。

また生徒には恐怖が残っていたが以前と楽しい学校生活を満喫するようになっていった。

一方その頃、B君の事件から1ヶ月後の事だった。K子ちゃんの自宅から5km離れた林で死体が発見されたのである。そう、K子ちゃんだった。死因は首吊りに自殺。よほど憎しみが凄かったのであろう。

最初、警察は死体を発見した場所を見て恐怖を覚えた。K子ちゃんの死体の周りの木には「呪」と「殺」・「死」の三文字が木に掘ってありその中心あたりでK子ちゃんは自殺していたのである。この事は表には出さず文字の書かれた木は伐採する事にした。この事件はその学校の7不思議になりずっと残るようになった。その内容はこうである

イジメっ子は気をつけたほうが良いよ。K子ちゃんの姿を見ると必ず殺される。

～あとがき～

最後まで読んでくださった方、有難うございます。

今作では「虐め」というテーマで書いてみました。子供だけでは無く、大人でも虐めをし虐められた人というのは

どれほど悔しいものなのか。ニュースでも「虐めにより自殺」という言葉をよく見ます。

その中には小学生の子もいます。そんな小学生で自殺するとはどれほど悔しかったのだろうか。

そう思うと心が痛みます。

大人でもしてしまう虐め。虐めで亡くなった方というのは相当な恨みのはず。もしかしたらK子ちゃんと同じような子もいるかも知れません。「呪」というのは怖いもので人の恨みなどはジंकクスになりそれが呪いの儀式などにもなり呪われ続けます。呪いを信じるも信じないも人次第ですが恨みにより殺人。これも一種の呪いかも知れませんね。

今後、ホラーだけではなく色々なジャンルに挑戦したいと思っていますのでどうぞ宜しくお願いします。